

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班 (TEL 2171, 2174) に。
3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL 2172) に連絡ありたい。

電信写

Q36RA 12-083

因因の公因	務典房
次次	
臣官官審審長長	
博公外查	代表使研審
察人因在儀警	括審書对文会厚情才
企長	調
領移長	参一二旅查移
長	了 二難 对
米長	北
中南長	番一二
長	番西の洋 四 二東
近ア長	番一二アア 一一
長	因 経国資漁 経国資博
	審海
協長	因因因 因
長	因因因 因
長	因因專 因政経
番	因 因
長	因因因 因

総番号 R037416

主管

年 月 24日 04時 22分 中 国 発 重 中  
59年 03月 24日 05時 46分 本 省 着

外務大臣殿 鹿取大使

総理訪中 (首のう会話—国際情勢)

第1326号 暗秘 大至急 Q36RA

往電第1322号別電4

チョウ総理:

(1) 国際問題については、外相会談もあるので要点だけ申し上げる。当面の国際情勢は、緊張しゆれ動き、戦争のきよういは依然存在するというのが中国の見方であり、これに変化はないが、2つの超大国の争だつに対する見方については少し変化がある。70年代には、2つの超大国の戦略的体制は、ソ連が攻め米国が守るというものであり、戦争の主たるきよういはソ連であつた。この分せきは当時の実情に合つたものであつた。しかし、ここ数年間、情勢はいくらか変化し、ソ連と米国がお互いに攻めることもあれば守ることもあり戦略的にこう着状態にある。

(2) 日本政府がアジア地域におけるソ連のSS-20の配置増加にきわめて大きな関心を持っていることを十分理解する。中国政府もまた大きな関心を有している。中国政府も、日本政府と同様に、ソ連がアジアで中きよ離核ミサイルを配置することに反対している。また、米ソがアジア地域の中きよ離核ミサイルの配置をめぐる争いをエスカレートさせることも目にしたくない。米ソ双方がアジア地域を含め世界のい

# 秘密指定解除

情報公開室

秘

## 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班 (TEL 2171, 2174) に。
3. 本電の主管変更は記録班 (TEL 2172) に連絡ありたい。

## 電信写

かなる地域においても新たに核兵器を配備することを停止し、既にある核兵器の削減を行うべきであると思う。もしも、アジア地域における米ソの軍備競争の激化によりいつそうの緊張と動乱がもたらされることがあれば、これは、アジアの各国にとつて決してプラスになることではない。

(3) 中国は今でも中国の安全に対する主たるきよういはソ連から来るものと考えており、従つて、中ソ協議において3大障害の解消をけん持してきた。この中には、アジアにおけるソ連の中きよ離ミサイル配置に対する反対も含まれている。今、アジアでの中きよ離核ミサイル問題について、米ソとともに3カ国の会談を行うことに中国は応ずる気はない。アジアの問題は、他の地域とちがつて2つの核超大国による軍拡競争にあり、米ソ両国がそつ先して大はばに核兵器を削減して初めてアジアひいては世界の緊張がかん和出来るものと思う。以上の理由から中国としては、米ソのジュネーヴ交渉が中断されたことを非常に残念に思う。米ソ両国が核兵器の配置をやめ交渉のテーブルについて真げんに核兵器の削減を討論することを要求するものである。

(4) 中国は、核軍縮に関し、「3つの停止とひとつの協議」を提案している。すなわち、米ソが核兵器の実験、改良、生産を停止し、核兵器とそのとう載手段を50パーセント削減し、その後、全ての核兵器国の参加する代表性のある国際会議で削減交渉を行うというものである。この提案では、もつとも多くの核兵器を有する米ソ両国がそつ先して削減を表明し、他の核兵器保有国にも核軍縮に参加する責任を持たせることになり、公平かつ合理的な提案である。従つて、軍縮問題でもつとも重要なことは、全ての国が政治的・道義的圧力を行使し、核兵器を削減させることにあり、これにより、初めて国際的緊張のかん和が実現出来ることになる。

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班 (TEL 2171, 2174) に。
3. 本電の主旨変更は記載班 (TEL 2172) に連絡ありたい。

電信写

ナカソネ総理：

よく理解した。日本の防衛政策、SS-20の問題及びカンボディア問題については外相より発言することとしたい。(日本の防衛政策については、別途電報)

安倍外務大臣：

(1) (日本の防衛政策について言及ののち) この中であつてうれうべきは、ソ連の極東における軍備の強化であり、ミンスクに加えノボロシスクを極東に配備し、日本固有の領土たる北方4島に強大な軍事基地を設け、さらには、SS-20の増強を急いでいる。自分(安倍大臣)が昨年ゴガクケン外交部長と協議を行つた際108基であつたSS-20が現在では135基となり、これをさらに144基に進めようとしているのは間違いのない事実である。SS-20の具体的強化は日中にとつて関心事であり、極東の平和と安全確保のため今後の展開と情勢の変化を絶えず日中間で互に情報交換しあつて、この核戦力を削減するための努力をつづけていきたいと考えている。

(2) カンボディア問題については、日本は中国と基本的に同じ考えであり、中国と同じくASEANの外交政策を支持し三派連合政府を支持している。またグイエトナムが一日も早く「カ」から撤退することを望んでおり、撤退しない限り対越経済協力は行わないという原則をけん持している。「カ」における三派勢力の拡大は、「カ」の自主独立にとつて非常によろこばしい。日本は三派勢力を支持しており、今回、シアヌークを日本に招くこととした(5月30日に訪日する)。以上のような基本的な考え方でASEANとの協力を進めてまいりたい。

チョウ総理：

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班 (TEL 2171, 2174) に。
3. 本電の主管変更は記録班 (TEL 2172) に連絡ありたい。

電信写

- (1) (日本の防衛問題に言及ののち) いまのソ連の極東における軍備増強を重視しており、日中が情報交換を行うことに賛成する。
- (2) 「カ」問題について、日中双方の立場は一致している。また、日本がシアヌークを5月30日に日本に招くことに称賛の意を表明する。 (了)

SECRET